

(別添)

世界の人びとのための JICA 基金活用事業・業務完了報告書

1. 業務の概要：	
(1) 事業名	「ルワンダの虐殺の影響と貧困の連鎖から地域の子どもたちが未来に羽ばたく教育の機会を継続的に提供」(通常枠)
(2) 実施団体名	Rwanda Children's Hope
(3) 実施期間	2020年11月30日～2021年11月29日
(4) 実施国	ルワンダ
(5) 活動地域	ニャガタレ郡カランガジ地区～ニャガタレ地区
(6) 活動概要	<p>①活動の背景：</p> <p>ルワンダ東部県のニャガタレ郡は、親族・友人から虐殺被害を受けた生存者達が多数移住した地域です。Rwanda Children's Hope (以下、「RCH」という)は、政府により重度～極度の貧困と分類される家庭(虐殺の生存者、寡婦等)や困窮した家庭の学校に行きたくても行けない子ども・孤児・ストリートチルドレンたちの地域内での教育の機会を保障するため、私・共同代表綿本結子と、私の青年海外協力隊員時代の職業訓練校のカウンターパートのファティア・カバシंगा(自分自身も貧しく、虐殺後独りで帰還、当時は洋裁教員。現在は、サマリタン国際学校理事長、牧師)が2016年創設しました。2008年～2016年初頭まではRCHの前身「ルワンダ中学生学費支援の会」を運営し、現地の中学校進学以降の奨学金支援を行ってきました。きっかけは私の協力隊在任中、2007年、かき集めても家に30\$しかなく、優秀な成績ながらも中学進学の断念を迫られた少年ジョンとファティアの遭遇でした。支援を役場に訴えましたが、支援策は無いと言われ泣いていた彼の涙に、心を動かされたファティアは彼の父親を説得、中学への学費支援を開始、同時期に私も別の困窮世帯の少年の学費支援を開始し、上記の会を立ち上げました。私は以降、日本・広島と結婚後生活しているチャーリッヒで支援者を募り、毎年寄附金全額がファティアにより現地で奨学金に充てられ、村で初めての大卒者を輩出するなど、多くの子ども達に教育継続の機会を与えてきました。</p> <p>その取り組みから2016年・2019年日本大使館のGGP(草の根・人間の安全保障無償資金協力)の2度の御支援を受け、カランガジ地区に、私立サマリタン国際学校として、まず小学校と寡婦の子ども達のためのデイケア保育園舎が完成しました。(命名には、虐殺の経験を超えて善き隣人であり国際的視野を持った人を地域で育みたいというファティアの願いがありました。)2016年の開校の前後に、私とファティアは、従来の前述の活動に子ども達の食と栄養改善、学校教育の質向上、卒業後の青年たちの育成の活動を加え、RCHとして再編成しました。しかし学費・学校運営費の財源は、ほぼ寄附金やクラウドファンディングのみで、</p>

1) 学校の自己資金確保による経済的持続性、2) 教育省の方針に則った教育の質向上が課題でした。

2020年1月、JICA世界の人びとのための活動基金に、地域子ども達にこれからも継続して基礎教育の機会を保障し、子ども達が貧困の連鎖を自ら断ち切っていけるようにと応募、ご採択を頂きました。上記の課題解決のため、当初は、次の2つの目標を掲げて、活動を準備しました。:

a) サマリタン国際学校の自己資金確保: 地元のとうもろこし栽培などに既に熟練した、地域の農業集団による耕作で、収穫物を地元農協に販売することで、学校の自己資金を確保する。現在、寄附金による学費充当が全くできていない103人の小1~小6の児童の50%の学費・最低限の文具を学校でまかなえるようにする。また、将来(貧困のために朝食を家で食べられない生徒が多いため)朝食自給配布のためのノウハウを習得する。

b) 教育の質向上:

b-1) 教員向けの授業指導書を購入し、年間の学習指導計画および授業案を作成できるようにする。

b-2) 学校の教室に学習ポスターを貼り、苦手意識を持つ子の多い理数科に学習意欲を向上させる。b-3) 困窮児童の創造力と社会情操的学びを育むアートの学びを始め、定着させる。

b-4) ちいさな図書コーナー「日本&広島長崎平和文庫(仮称)」を創り、絵本の読み聞かせ等を通じて、読書習慣づけ、学習効果を向上させる。

a)については、農地取得が前提条件でした。農地購入は非常に高額であるため、農地を借りる先を見つけ、8月までには購入交渉も終わっていました。2020年3月、新型コロナ感染拡大を防ぐため、都市間移動を禁止するロックダウン措置が実施され、長期の休校・多くの企業で出勤停止となり、首都から多くの人々が農村部へ移住する中、8月半ば、購入予定先の地主が他の買い手に無断で契約を締結してしまい、隣村まで探しても農地候補が見つからなくなったため、a)を断念せざるを得なくなりました。新たに教育アドバイザーの助言を頂き、活動目標と内容を現地と協議した結果、次項②の通り、目標を再定義、ご承認・受託契約を経て、11月30日業務を開始いたしました。

②活動の目標:

活動の目標は、次の通りとしました。

a) 教員の授業力向上: 学期全体の学習指導計画(Scheming)ならびに授業案(Lesson Plan)の作成能力と共に、ルワンダ教育省の指針でもある教科横断的な汎用性の高い能力(コンピテンシー)を育成する授業づくりの基礎力を高める。

b) 児童の学力向上：

- (1) 小 6 の中等学校受験に対応可能な学力を高める。
- (2) 全学年において理数科の基礎学習能力および学習意欲を高める。
- (3) 児童の読書への関心を高め、平和な社会を構築していく人材に必要な基礎的教養を高める。
- (4) 生涯生きる力を自ら育むために必要な教科横断的な学習・運用能力を高める。

2. 業務実施結果：

(1) 実施した内容

新型コロナウイルス感染拡大防止措置として、2020年3月より11月半ばまで長期にわたる休校となり、教員も故郷に戻って移動禁止となりました。11月30日の業務開始後、現在に至るまで、子ども達の教育機会の確保のため、現地の文字通り日夜の懸命の努力に伴走支援を行う形で、下記のように活動を行ってきました。さらに、学校の付近で、新空港の建設が始まっていたのですが、12月政府による空港隣接集落（カランガジ地区）の移転が執行されることになり、集落の各団体と学校の政府との補償交渉が始まり、サマリタン国際学校は、移転団体としては最後まで残ることになり、理事長ファティアはじめ学校運営のボランティアスタッフの住居も含めて、12km先のニヤガタレ市街地に移転することになりました。

以下、時系列で、実施内容を記載させていただきます。

【実施内容①】

活動目標 a)について：

[2020年度第3四半期（11月30日～12月31日）]

契約締結当初の本活動の目的である「各教員（教科別専任制）が教材研究（各単元の教育内容と実践方法の研究）を主体的に行える環境を整える」こと、また「2016年度以降、授業案（Lesson Plan）に記載が求められるようになった汎用性の高い能力（コンピテンシー）とその育成に向けた教科横断的に学ぶ教育課題を各教員が適切な教材研究を通して設定し、その実現に向けた授業を構想する力を向上させる」—これらの実現のため、業務開始に先立って、再度現地スタッフ（現理事長、当時は校長兼園長と学校運営管理チーム）への事業概要説明会を行い、開始後、次の業務を行いました。

- 1) 教員の教科別指導書と参照のための教科書を第3四半期内に購入しました。
- 2) 前項とタイミングを合わせ、現地教員が学期開始の約2週間前に作成することになっている年間の学習指導計画（Scheming）、その他授業案の作成について、現地の小学校教員向け教科別指導書および教科書を基に、各単元の具体的に即して、教材研究、各教科や各単元の学習内容や方法や状況を組み合わせて実現する学習目標の設定方法、その実現に向けた授業展開の改善支援に必要となる1月に着任する現地の校長とのミーティング設定、教育アドバイザーの助言による資料の準備を行いました。

[2020 年度第 4 四半期 (2021 年 1 月 1 日~3 月 31 日)]

【活動(a)教材研究環境の整備と学習指導案の改善支援】について

- 1) 最初に教員全員を集めて円座で自己紹介を行い、事業のブリーフィングを行いました。これに先立って、事前に現地スタッフ(※)に、事業期間中の目標とその達成のための活動と期限、指標を示したロードマップを示し、新型コロナ禍の影響による調整部分を協議した上で臨みました。
(※現理事長ファティアとジョン・ンディヤンバジェ。ジョンは、運営管理チーム代表で学校コーディネーターであり、自身が RCH 奨学金により首席で大卒後、運営調整とキリスト教学の教員・若手代表として参加しています。)
- 2) 1 月着任した新校長の紹介を受け、彼が管理している第 3 四半期に購入された教科書の活用・管理状況についてのオンライン・ブリーフィングおよびバーチャルツアーを依頼し、日本側の RCH 新拡充ボランティアも参加して、開催しました。
- 3) 次四半期より開始する学習指導案、年間の教科指導計画改善のための聞き取り調査の準備をしました。

<2021 年度第 1 四半期>

【活動(a)教材研究環境の整備と学習指導案の改善支援】について

教科別指導書と教科書の購入による変化について、現地教員および学習者に「どのような変化が起きたか」「どのように活用しているか」をインタビューし、ビデオメッセージを集め、現地コーディネーターと教育アドバイザー参加のオンライン意見交換会を開催しました。教員からは「授業案が効果的に作成でき、自信がついた」子ども達からは「授業がよくわかるようになった。」「学習意欲が湧いて、教科書を読むのが楽しくなった。」等の反響がありました。

<2021 年度第 2 四半期>

【活動目標(a)教材研究環境の整備と学習指導案の改善支援】の状況と成果について

- 1) 新型コロナ禍での現地感染防止のためのロックダウン(外出最大自粛・都市間の移動厳禁等)、長期の休校により、ルワンダ教育省・国家教育局 REB では、全国の小学校 4~6 年生の 3 学期を 11 月 2 日~7 月 9 日まで、1~3 年生の 3 学期を 1 月 18 日~9 月 3 日までとしています。サマリタン国際学校(小学校・附属保育園)では、冒頭に述べた緊急事態に次々直面、突然の集落・校舎移転、さらに理事長もこの四半期、新型コロナに感染しましたが、移転のため登校困難になっている子ども達も含めて、教育機会継続への懸命の努力を続けており、Rwanda Children's Hope も随時現地から情報を得ながら、伴走型支援を続けました。
- 2) ルワンダでは小学校卒業時に受験する卒業試験成績により、入学できる中等学校が決定

します。この卒業試験が今年初めて全国統一順位を示す形で7月12日～7月14日まで実施されました。サマリタン国際学校開校以来初めての6年生19人（1人は疾病により不参加）が受験し、18人が全国最上位のDivision1（全国受験者数251,906人中、最上位の5.7%）に入る成績を残し、1人が上位となるDivision2（上位の21.5%）に入り、それぞれ点数に応じた中学校に入学が決まり、国内でもトップの優秀校に進学することができました。

なお、理事長は全校生徒と保護者達から毎日励ましを受け、日本からの継続支援に勇気づけられて退院、仕事に復帰しました。

また、これまでの活動成果を振り返り、効果の大きかった教員向けの教科別指導書・教科書の読み込み会（年間の学習指導計画・授業案作成前に教員が集まって、教科別の指導書・教科書を読み、情報交換を行う会）をルーティン化し、9月下旬に開催しました。

<2021年度第3四半期>

学校初の6年生が卒業し、10月11日から新学年度が始まりました。現地から「新6年生をはじめ、各学年の教員も生徒も、前年度の学業成績向上の効果を踏まえて、ニヤガタレ市に移転後の新校舎完成まで、狭い仮校舎ですが、さらに意欲をもって取り組んでいる」と報告を受けました。最終四半期を迎え、サマリタン国際学校の教員、児童、地域の保護者からの本事業活動についてのフィードバックに基づく現地レポートを提出してもらいました。この後現地と事業全体の振り返りを行い、次年度以降の教育の質向上に活かしていきます。

【実施内容②】

<2020年度第3四半期>

【活動b-(1)教科書を活用した自学自習および学習活動改善の支援】について

- 1) 小6の児童が活用する教科書を購入。各教科専任教員の聞き取りシート原案、自学自習指導の資料を作成。
- 2) 教科書配布前後の上記児童の学習活動の変化について、担任の観察、学業成績の推移データなど現地のモニタリングを行う現地スタッフへの説明を行いました。

<2020年度第4四半期>

現地では、COVID-19感染拡大増加に対応する措置として、地域外への移動禁止（どうしても移動が必要な際は、警察署に一時的な通行許可を申請する必要がある）、首都キガリへの入市禁止の状態が続いており、【活動b-(2)教室での理数科学習ポスター、理数科教科書を活用した授業改善支援】のための理数科学習ポスターが購入できない状態が続きました。また、昨年3月からの長期休校（高学年は11月中旬まで、低学年は1月中旬まで）のために学校で勉強できなかった遅れ分を一気に集中的に取り戻すようにREBから要求されていて、教員は毎朝、早朝時は6時～18時まで集中的な授業と補講を行うなど激務の状態が続きました。特に中学受験を控えた6年生は集中的学習を求められました。心身共にプレッシャーが大きかったですが、この試験結果が児童にとって、進学先・今後の進路を決めるため、皆一生懸命

でした。

このため教科専任制のもとで、予定していた4年生・5年生の理数科・社会科の初となる連携公開授業への準備は、現地の様子を見守りながら延期せざるを得ませんでした。RCHとして、この緊急時学校の存続を最優先に、できるサポートを工夫しました。本四半期は、今後の活動の礎となる現地教員との信頼関係の構築第一に活動しました。

<2021年度第1四半期>

【活動b-(1)教科書を活用した自学自習および学習活動改善の支援】について

1) 7月の卒業試験を前に、猛勉強を重ねている小6の自学自習による学習進度について、日々長時間集中労働となっている教員の過重負担を避け、現地の学校コーディネーターを通じて、フォローアップを行い、進捗状況の確認を行いました。

2) 新年度、教育アドバイザーの交替による新アドバイザーへの引き継ぎ・オリエンテーション、現地スタッフとの初会合を実施。以前、REB職員も参加した本邦研修で講義した経験を持つ新アドバイザーの教員教育経歴と近年取り組んでいる「Concept-based Curriculum」の概要プレゼンと質疑応答をZoomで行いました。現地スタッフは、これまでの活動の成果を踏まえて、将来の導入と展開に特に関心を寄せています。この内容は後日、現地の学校コーディネーターを通じて、教員に情報共有されました。

3) 理数科の授業案と授業実践、社会科他教科との相互関連について、教員のアプローチの現状と今後を検討するビデオ・カンファレンスについて、新教育アドバイザーと現地コーディネーターのガイダンスを行いました。

ビデオ・カンファレンスは数回トライしましたが、現地のネット接続・通信事情がさらに悪化しており、現地から、授業ビデオを送ってもらい、日本側からコメントを送る形で情報交換を行い、その後振り返りについて、現地から報告をもらいました。

現地では、教科書を熟読するのみでなく、学習者の協力学習（研究・討論・発表等）を授業に取り入れ、教員・児童ともに学習能力が向上していました。

【活動（b）教室での理数科学習ポスター教材を活用した授業改善支援】について

1) サマリタン国際学校との協議に基づいて計画した理数科学習を促進する各教室用のポスター教材について、ロックダウンが解除された後、現地でキガリの書店（教材提供企業）をまわって購入準備をしました。その結果、各学年の理数科ポスターの在庫自体が揃わないことが分かり、寄附金事務局にご報告しました。書店に在庫が有って今後も活用できる小学校のポスター教材を計画枚数（20枚）の範囲で、次のように購入させて頂きました。

- ・小6 理科2枚（動物の分類、心臓）

算数 1 枚（幾何学）

社会 2 枚（地理：北米、欧州）

・小 5 理科 2 枚（眼、無脊椎動物）

算数 1 枚（四辺形）

・小 4 理科 2 枚（骨格、音）

算数 1 枚（かけ算）

・小 3 理科 1 枚（雨水）

算数 1 枚（1～1000 までの数）

・小 2 理科 1 枚（水）

算数 1 枚（1～100 の数）

・小 1 理科 1 枚（樹木）

英語 3 枚（共通表現、発音、アルファベット）

以上 合計 20 枚

2) 現地の通信事情が悪化を受けて、ポスター教材の授業への活用方法、日本での授業例について、RCH の現地コーディネーター兼教員代表のジョンを通して、学校内の教員に伝えるためのセミナーを実施しました。その実施結果と成果について、教員と地域の保護者にもインタビューを行い、結果を最終四半期にまとめることになりました。

**【活動(b)-3. 平和な社会構築のための基礎的教養・関心を育む広島・長崎の書籍コーナー】
について**

新型コロナ感染増加による広島県・市の緊急事態宣言下で公共施設の休館が続く中でしたが、遅くとも 10 月半ばまでには印刷物優待航空便（船便は昨年より現在もサービス停止中）で現地学校に贈るため、広島平和記念資料館（広島市平和文化センター）に趣旨を説明、快諾頂き、9 月 13 日下記の英語版書籍を購入させて頂きました。

広島平和文化センターより広島平和記念資料館内販売の英語書籍 6 冊：

①『被爆証言集』（英）

②『原爆の絵』（日・英）

③『図録 ヒロシマをつなぐ』（英）

④『絵で読む広島原爆』（英）

⑤『原爆詩一八一人集』（英）

⑥『8:15 - True Story of Survival and Forgiveness from Hiroshima』（英）

各 1 冊

〈2021年度第4四半期〉（2021年10月1日～11月29日）

【活動(b)-3. 平和な社会構築のための基礎的教養・関心を育む広島・長崎の書籍コーナー】
について

10月7日付、長崎原爆資料館ミュージアムショップ書籍販売コーナー（長崎平和施設管理グループ）より、次の3冊の書籍と紙芝居を購入、上記グループの運用規定に従って翌日ゆうパック着払にて受取り、RCHスタッフによる児童洋書寄贈本・目録・読書ガイドと共に、10月13日計画書の通り印刷物航空便にてルワンダに送付しました。

- ① 『あの夏の日 (On That Summer Day)』
- ② 『Nagasaki - A Record in Manga』
- ③ 紙芝居『No More Hibakusha - Senji Yamaguchi』各1冊

11月1日、現地のサマリタン国際学校から寄贈本が届いた報告がありました。さっそく仮校舎の図書コーナーの書架に収めたこと、さらに子ども達にまず絵本の読み聞かせを行った旨、報告を受けました。また、英語とキニヤルワンダ（ルワンダ語）、キリスト教学の授業の中で、それらの本の主題を引用した授業も行われています。

同校では、子どもの生涯学習の礎となる知的好奇心、読書習慣、情操をさらに育むため、新校舎に図書館の設置を計画しています。

- ① 様々な困難に直面しながらも、7月の全国統一卒業試験で、卒業した6年生が全国トップの優秀な成績を収め、全国でも優秀と高い評価のある中等学校に入学できたことは、本事業の活動の成果と現地の教育への熱意の結晶です。
- ② 全学年において、学習ポスター、教科書、学習者間のディスカッションを導入した理数科授業の実施によって、現地教員から「子どもたちの基礎学習能力および学習意欲が大幅に高まりました。小学生たちの意欲をみて、保育園児たちも学習や読書への意欲と関心が増している」と報告を受けました。
- ③ 子ども向けの洋書・英語絵本、広島・長崎からの非戦平和をテーマにした英訳された本など、教員も授業の中で引用したり、読書の時間に子ども達が利用するなど、平和な社会構築のための基礎的教養を培う場ができつつあります。

(2) 実施成果：

【目標 (a)】教員の授業力向上：学期全体の学習指導計画 (Scheming) ならびに授業案 (Lesson Plan) の作成能力と共に、ルワンダ教育省の指針でもある教科横断的な汎用性の高い能力 (コンピテンシー) を育成する授業づくりの基礎力を高める。

① 教員向けの教科別指導書、教科書の活用：

ルワンダの私立学校では、ルワンダの学校教育で特に強調される REB 選定の教科書を使う重要性を認識していても、教科書をほとんどが購入できないために、非常に数少ない教科書から人数分、日々の授業ページをコピーして使っている場所も多く見られました。支援者が特に多く寄附額の多い首都の私立学校においても教科書購入には予算が無く、このような光景を目にしてきました。

また、REB 各支局に新学年度開講の二週間前に学校から提出する教科別年間学習指導計画 (Scheming) も、今まで貧困地区のこの私立学校は指導書・教科書が全く入手できなかったために、公立学校が作成を終えた後に借用して作成するしかなく、授業案についても然りで、2020 年 1 月教員達から質的課題として提示されていました。

活動の成果について、現地の教員からの報告は、「効果的かつ効率的に Scheming、授業案が作成でき、授業にも自信がついた。」「学習者も意欲的になった。保護者からも感謝の声が聴かれ、学校の地域における評価が格段に向上した。」全国統一卒業試験でトップの成績を収めたことで、全国優秀校の 1 つとして、社会的認知を得ました。

集落の段階的・分散的な移転で、親類等を頼った結果、遙か遠くの町に転入したため通学不可能になり、学校もまだスクールバスを運行できる採算性が見込めなかったために児童数が 80 人に減ってしまいましたが、ニャガタレ市内で新たに、授業料を払って転校・入学させたい保護者からの問い合わせが相次いでいます。(学校は少人数学習制を保持するため、児童数を 100 人上限で運営する方針です。)

② ルワンダの教員は小学校も教科別専任のため、教科横断的な授業の実践が課題でした。8 月に行った REB ニャガタレ郡支局への学校教員の教科別の年間学習指導計画作成時の指導書・教科書の読み込みの期間だけではなく、日常の授業の前後でも、教員間の情報交換が活発になりました。新型コロナ禍による長期休校、その後の集中補講、移転による集落分散の混乱とコミュニティ再建と並行する形でこれらの活動が進みましたが、その中でも、日本からの協力支援があり、教員も子どももモチベーションをさらに高め、教育の機会確保と共に、質を維持向上させることができました。

③ 【目標 (b) 児童の学力向上】 の 3 つの目標について

(b-1) については、既に前述の通り、旧 6 年生の今年 7 月の学力考查結果のみでなく、新 6

年生にも、そして波及的に低学年にも、集中補講以外の日常の授業においても、学力向上のノウハウが引き継がれています。

(b-2) 教室のポスター教材を活用した学習者の知的好奇心・探究心を刺激する授業は、理数科のみでなく、他の科目にもポスター等を活用した図解、問いかけが導入され、子ども達の基礎学習能力、学習意欲が増しています。

(b-3) 放課後はまず家事手伝い・水汲みの仕事、そして遊びと宿題という子ども達の1日の時間割の中で、効果はまだ徐々にですが、登校後に図書室利用が奨励されることで、図書を利用する子どもたちの姿が見られるようになりました。

(3) 得られた教訓など：

*** 今回の事業を通して経験したエピソード、感じたことなどがありましたらご記入下さい。**

① 事業の運営体制についてのチャレンジ

当初、学校側の事業に関する窓口が、現地の最終意志決定者である校長兼園長のファティア一本の体制となっていたため、彼女が2020年秋以降、政府との連日の移転交渉や政府による女性リーダー・オンライン夜間研修者の選定を受けて、さらに多忙となった後の連絡の停滞や現地で悪化している通信環境が、2021年初頭からプロジェクト全体の進捗に支障をきたし、深刻な危機感を持ちました。

そのため、現地の学校運営において補佐している人物の中から自身も若手の教員であるコーディネーターの参加を要請、配置が決定、新たに通信機器を提供することにより、コミュニケーションが改善し、業務の効率が向上しました。

その前には、相次ぐ学校の存亡の危機への長引く渉外活動で、いつになく疲労困憊に陥ったファティアを、私達事業スタッフだけでは遠隔でなかなか慰め励ましきれず、彼女の神学士取得を支援し、長年サマリタン国際学校とRwanda Children's Hopeの活動を支援くださってきた日本の女性NGOリーダーとお話して対策会議を持ちました。私達の活動にもビジョンを与えて下さり、彼女の励ましを通じて、ファティアも一層の元気を取り戻すことができました。

また、日本側も2020年末まで、諸事情からプロジェクト管理が1人に集中してしまったため、新たに人数を増やし、負担を1人に集中しないように心がけました。

当初、一緒に計画していたプロジェクトが進みにくくなる様々な環境要因が生じましたが、その都度、現地の子ども達の未来を、教育を通じて支えていくという共通目標を現地と確認

することができ、日本側の支援に現地も励まされて、事業を成功裡に完了することができました。

② 現地購入の領収書書式についてのコミュニケーションの齟齬

事業開始前後に現地に対して領収書の書式の確認を行い、1回目は問題なく提出を受けました。しかし、次にポスター教材の現地購入の際の領収書の購入先への連絡期間は、住居移転・遠距離で在籍できなくなった子ども達へのケア等で現地と直接コミュニケーションの時間が取れない時期と重なり、現地にとって手軽な Whatsapp グループチャットのみとなったため、領収書の雛形について過去に遡って指示情報を見る事が難しく、領収書の個別の科目名表示の仕方について、何度かやり取りを要しました。

そのため、直接話せる時機を待ち、改めて領収書の要項を示した雛形をリマインドし、スタッフ全員で情報を再度確認することで、解決できました。

③ 業務完了の姿を共有したロードマップ

感染拡大により、繰り返されるロックダウンと休校、学校を取り巻く環境の激変、大人も子どもも移転先のコミュニティへの定着など、当初予期しなかった難局が幾つもあり、都度調整や忍耐等が必要でしたが、受託開始時に現地と共有した事業目標と活動内容とサブ目標や期限など概要を示したロードマップの最後に、業務完了時、生徒達をはじめ、教員、学校と運営スタッフ、地域の笑顔が増し、お互いに成果を振り返り、祝い合うことを掲げていました。それが最後までお互いを尊重して成功裡に業務を実際完了することに繋がりました。

(4) 今後の活動・フォローアップの方針：

*** 今回の実施期間終了後の、現地での活動やフォローアップの方針・見直しなどにつきまして記載下さい。**

- ① この事業によって高まった教員の授業力・指導力、情報共有による研鑽の機会利用、子ども達の学習への意欲や読書への関心を今後もさらに高めていくため、環境と体制について、本事業の振り返りを現地と一緒に実施します。
- ② ニヤガタレ市の新天地に新校舎竣工の際には、校内の教科書、寄贈図書やポスターの保管環境と利用体制について確認します。
- ③ 次の教育のビジョンとして、コンセプト・ベースの教育の日本側との双方向的な学びなど、地域の子ども達を支え、学校の自立運営も図っていけるよう、新たな教育の対話と質向上の活動を考えています。現地のスタッフ・教員・青少年達、地域のアクター、教育アドバイザーと適宜話し合いながら、今後も伴走型支援を行っていきます。

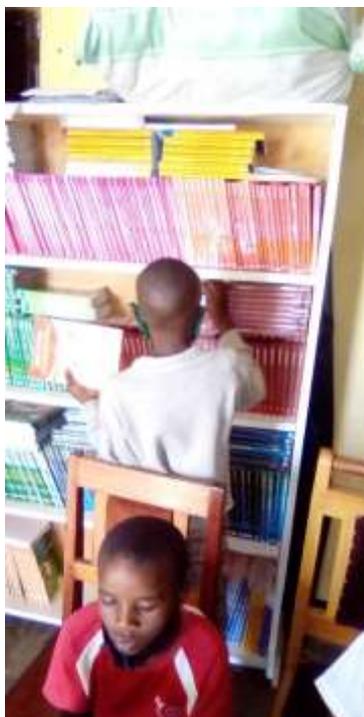
3. その他(エピソード・感想・写真など)

(1) 活動中のエピソード・感想など

新型コロナウイルス感染拡大の増加率が激しいニヤガタレ郡であるため、受託期間中ロックダウンを2回、長期の学校閉鎖を2回経験、また理事長や現地スタッフも感染する事態になりました。繰り返しになりますが、加えて晴天の霹靂とも言える政府の計画実施による集落の各地区への移転が実施され、学校の存続自体が危ぶまれる危機となりました。しかしその中でも、6年生が全国統一試験で、非常に優れた成績を収めたことにより、学校は全国トップ校の一つとして脚光を浴びることができました。子ども達の成績は、今回の事業受託で行った教科書や教員向けの指導書ならびにポスター教材の効果的な活用による教員の授業力・自信の向上、子ども達の学力・思考力を深める授業の導入と寄贈図書利用、そして様々な教育に関するアドバイスを受けた成果によるものです。現地の教員・学習者・地域からのフィードバック報告に「新6年生から1年生と附属保育園に至るまでの向学心、やればできる自信、地域にとっても未来への希望に実際繋がっている」と記載された通りです。RCHと現地の学校が地道に努力を重ね、小さな進歩を喜び合って準備をしてきたことを、子ども達が成果として示してくれました。現地の教員と子ども達の笑顔が光っています。新たな移転先も含め、より広い学校コミュニティからの信頼にも繋がっています。

(2) 活動の写真

写真1



(教科書を読み予習復習する子ども達)

写真2



(年間学習指導計画と授業案作成で、教員向け指導書・教科書を読み合わせる教科専任教員達)

写真4



(学校教育で重視される教科書を読む新6年生)

写真3



(学校初の6年生、全国統一小学校卒業試験で最上位18人、上位1人という優秀な結果を聞いた日)

写真5



(学習者のディスカッションを取り入れ、
学び合いを深める授業を実践中)

写真6



((教員は、指導力に自信がつき、子ども達の意欲は
増している。))

(3) JICA 基金活用事業を受託したことで団体の成長につながった点・良かった点

受託以前の個人や団体からの寄附支援事業について、寄附金や寄附品の管理をルワンダ側に任せる形が大きかったのと比較して、本事業では現地駐在・派遣困難な事情もあり、日本側からのプロジェクト・マネジメントの現地への働きかけ、対話の比重が大きかったところが、従来の支援の仕方と違う点でした。ルワンダ側だけではなく、日本側も目前の活動の進行だけではなく全体の体制と現地のニーズと状態を見ながら、お互いにパンデミックのもとの困難な中でブレイクダウンを起こさず、逆に信頼を深めていく最良の方法を見出し、ピンチをチャンスに変えることができました。皆様、誠にありがとうございました。